

オリックス・バファローズ 観客動向調査研究2013



萩谷総合公園野球場（高槻市）で行われるオリックス・バファローズの試合の観客動向調査。総合情報学部（同市にキャンパス）で社会調査やマーケティングを学ぶ学生が調査・分析し、発表しました。

球場で調査を行う学生

活動の概要

目的	野球観戦についてのマーケティング調査の実施 / 大学とプロ野球 オリックス・バファローズとの連携強化
連携メンバーおよび役割	オリックス野球クラブ株式会社（オリックス・バファローズ） …野球ビジネスのレクチャー、球団として要望する調査項目の提示 関西大学総合情報学部准教授 松本 渉 / 同学部教授 徳山美津恵…調査設計と実施、データの分析と報告
活動地域	萩谷総合公園野球場（大阪府高槻市） / 関西大学高槻キャンパス
活動期間	2013年5月8日（オリックス・バファローズでの研修）～2013年11月19日（研究発表会）

連携の経緯

球団側から高槻市にある萩谷総合公園野球場で行われる二軍の公式戦の観客動向調査について、近隣にキャンパスが位置する関西大学総合情報学部で打診があった。同学部で調査を専門とする教員2人が検討した結果、双方にとってメリットとなることから、両教員とそのゼミ生が調査プロジェクトに取り組むことになった。

解決すべき課題

- (1) 市民球場での試合実施と告知の効果測定
- (2) 学生視点での分析と提案に関する期待



球団の方の助言を得ながら研修を受ける様子

成果発表時の様子

大学の役割

本プロジェクトでは、オリックス・バファローズの求める専門的な調査の必要性にこたえ、関西大学総合情報学部において調査を専門とする2ゼミ（社会調査とマーケティング）合同で市民球場（萩谷総合公園野球場）での同球団の公式試合に関する調査と分析を行った。

まず、5月に同球団を訪問して野球ビジネスに関する研修と試合開催の球団側の意図に関するヒアリングを行った後、大学内にて学生たちが自分たちの手で調査手法と調査項目を決定し、7月6日の試合当日に調査を実施した。

その後、ゼミ内外の時間を利用してデータの入力と分析を進めた。最終的に、11月19日に関西大学高槻キャンパス内にて、球団関係者と高槻市関係者、関西大学総合情報学部生の前で分析結果と戦略提案についてのプレゼンテーションと質疑応答を行った。

成果

- (1) 関西大学高槻キャンパス内で球団と高槻市に対し調査結果を発表
- (2) 球団への調査データと分析結果の提供
- (3) 学生が社会調査の実際を体験

現場の声

- ・オリックス野球クラブ株式会社

球団ビジネスの基本で地域密着であり地元高槻の関大生が調査する意味は大きい。その調査結果は球団、行政の大きな関心事であり『役に立つ調査』をしていただいた意義は大きい。

- ・学生

調査設計から分析までの一連の作業を行う中で、社会で活躍する方々と関わったこと、プロスポーツをビジネスの観点で見ることが出来たことが非常に有意義な点でした。

今後の展望

- (1) 新しい視点での再調査
- (2) 他学部ゼミを含めた取り組み

研究者の紹介



総合情報学部 准教授
松本 渉
(まつもと わたる)

専門は社会調査、非営利組織論。市民の意識調査の実践と分析、そして調査法の研究を継続するとともに、マスコミの世論調査の助言などを行っている。



総合情報学部 教授
徳山 美津恵
(とくやま みつえ)

専門はマーケティング、ブランド論。地域ブランドの研究を継続する中で、自治体の各種委員を歴任するだけでなく、ゼミ生とともに地域活性化プロジェクトに取り組む。